

令和2年度

事業報告書

---

社会福祉法人能美市社会福祉協議会

## 令和2年度事業報告

令和2年度は、世界的な新型コロナウィルスの感染拡大により、今を生きる私たちに多くの試練を投げかけてきた1年でありました。

これまでの社会福祉協議会は、地域住民、民生委員・児童委員、ボランティア、社会福祉法人、福祉施設、企業等と共に、地域福祉活動やボランティア活動を通じ、誰もがいきいきと安心して暮らせる「ともに生きる豊かな地域社会」を目指し、つながりづくりをすすめてきました。しかしながら、コロナ禍において、人と人が互いに距離を取り、触れ合う機会を減らすことが求められ、地域住民等による地域福祉活動やボランティア活動の休止や活動自粛が余儀なくされて、未だ、本来の活動に至っていない状況です。

そのような中においても本会では、感染防止対策を講じながら、地域福祉活動の継続や関係者同士でつながることを諦めず、地域住民と共に活動する工夫をしてきました。

法人運営においては、コロナ禍の中、理事会・評議員会等の開催を、書面決議に替えさせて頂き、また予定していました役員等研修は中止せざるを得ませんでした。会員会費については、感染症の状況を確認しつつ、時期を遅らせ9月を推進月間とし、取り組みました。能美市社会福祉大会についても、例年の能美市民ボランティアフェスティバルとの同時開催の形を変更し、9月に単独での開催としました。

第3次能美市地域福祉活動計画は推進の3年目でした。これまでの取組みを基に市が進める「地域共生社会」の各事業と連携しながら、推進する2委員会と進捗状況を確認するためのこころ豊かな地域づくりの会の活動に取り組みました。3年目の進捗状況を市民に報告する機会「春まちぽかぽかプロジェクト」は、コロナ禍の中において、多数のプログラムによる開催は難しく、規模を縮小し、推進する2委員会の活動報告とこころ豊かな地域づくりの会による「地域福祉のつどい」及び協賛事業の開催となりました。3年目の評価委員会を3月26日に開催し、各委員会からの自己評価及び今後に向けての視点と取り組みを確認しました。(評価委員会の評価は別途)

また、能美市から受託した「地域福祉委員会活動推進員養成・活動支援事業」、「生活支援サービス基盤整備事業」及び「地域力強化推進事業」は、地域福祉活動の基礎組織として、町会・町内会に設置された地域福祉委員会が、町会の中で生活上の困りごとの課題や個別の支援について話し合い、力をあわせて、見守りや助け合いの活動に取り組めるよう引き続き支援をしました。

いきいきサロンについては、コロナ禍の中、開催を中止したところが多かった反面、地域の見守り活動等の情報交換の場である地域福祉委員会は少人数で開催されており、担当職員(CSW=コミュニティソーシャルワーカー 以下、「CSW」という)が、地域に出向き、課題の把握から、新たに創設されたのみ地域力強化支援ファンドの申請につながるような地域活動の支援を行いました。

そして、市内の8社会福祉法人が連携し、市の福祉が更に推進することを目指した「のみ社会福祉法人連絡会」では、2つの専門委員会が立ち上がり、中でも、長く継続してきた本会の「ふれあい弁当」のボランティアによる調理・配達から、新年度は市内の5社会福祉法人へ引き継がれることとなりました。

生活支援としては、賞味期限が残っている食糧をご寄付頂くフードドライブを開催し、支援を必要としている方々にお配りしたり、移送支援として地域福祉委員会へ車両つなぐ号を貸し出すなど、少しづつ住民レベルでの生活支援の芽がふくらんできました。

能美市から受託した「生活困窮者自立相談支援事業」では、生活に困窮する方々の相談支援の機関として、傾聴等による寄り添いやアウトリーチを行い、他機関とのネットワークによる支援等に力を入れ、一人ひとりの状況に合わせた支援を行いました。また、地域の中で、孤立、閉じこもり、未就労、離職から生活困窮状態になっていく流れも見え、「ふれあい相談員」が、町会長、民生委員・児童委員と連携し、市営住宅等の世帯を中心に閉じこもりの方々等の実態把握等、安否確認を進めているところです。

一方、石川県社会福祉協議会から受託した「生活福祉資金貸付事業」では、令和2年3月25日に新型コロナウィルスの感染症の影響による休業や失業で生活資金にお悩みの方への生活福祉資金貸付制度の特例制度（緊急小口資金・総合支援資金）が実施され、その後、延長、再延長の貸し付けがなされたことを受け、市民の生活を支えるための相談、申請の支援を行い、現在も引き続き、市民からの相談に対応しています。

「福祉サービス利用援助事業」では、ケースを通じ、各地区あんしん相談センター、医療機関、消費生活相談室、弁護士、福祉事務所、ハローワーク等の連携が更に進んだことや、事業の周知が進み、相談支援事業所等からの相談も増えたことで、利用契約件数も伸びてきました。

ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営では、令和2年度は、広島県江田島市社会福祉協議会が実際に運営した災害ボランティアセンターの運営方法を学びました。

しかし、コロナ禍の影響を受け、能美市民ボランティアフィスティバルの中止をはじめ、ボランティア活動の休止や自粛等が長引いており、センターに登録するボランティアグループ数も減少しています。ボランティア活動者の掘り起こしや、活動の支援、情報の発信・共有の手段を充実させるなど、センター運営の強化を図る必要があります。

ファミリー・サポート・センターの運営では、仕事と子育ての両立に困難を抱える世帯に対し、互助の活動として会員の派遣と併せて傾聴、見守り等の支援も行いました。令和3年度からは、能美市が更に子育て支援を強化させる中、市子育て支援センターによる直営となります。住民による互助活動の基盤をつくることができたと考えています。

市内3地区全域で、高齢、障がい、生活困窮等の包括的な相談を受ける体制が整う中、寺井あんしん相談センターの運営については、相談窓口として、精神障害、アルコール中毒、8050問題、支援拒否など多様で複合的な課題の相談が多く、くらしサポートセンターのみやCSW等と連携しながら個別支援や地域づくりに取り組みました。

能美居宅介護支援事業所については、人員配置による、より有利な報酬を得るための加算体制が整わず、苦しい経営が続いていますが、質の高いケアマネジメントを提供できるよう努めてきました。くらしサポートセンターのみ、各地区あんしん相談センター等と連携を深めながら、困難ケースを積極的に受け入れ、社会福祉協議会の在宅サービスの一環として、地域の福祉に貢献することができました。

令和2年度は、コロナ禍の収束が見通せない中で、今一度、「地域のつながりづくり」という原点に戻り、いろいろな視点で考え方を工夫して、地域福祉活動やボランティア活動を推進してきた年であったように思われます。

新型コロナウィルス感染症の拡大防止のため、当初の事業計画を中止、変更せざるを得ない状況でしたが、開催時期の異動や規模の縮小、参加者の人数制限、オンラインでの会議や研修の開催等の工夫をしながら、行うこともできました。また、長引くコロナ禍の影響により、生活福祉資金の特例貸付への対応や生活困窮者への支援等、フードドライブ開催の生活支援等、これまでにないような生活課題にも対応し、新たなつながりづくりにも取り組みました。

コロナ禍というこれまでに経験したことのない厳しい経済、社会状況の中ではありましたが、これまでのノウハウをベースに、能美市が掲げる「共生社会の実現」の推進に寄与することができたことを報告します。

令和2年度における事業の状況は、次のとおりであった。

## I. 住民参加・住民主体で地域福祉を推進する社会福祉法人の運営

### (1) 理事会、評議員会、各種委員会の開催

①理事会（4回）、評議員会（4回）、評議員選任・解任委員会（2回）、監査会（1回）をそれぞれ開催した。

会議名	開催回数	開催日	開催場所	案件
理事会	第65回	6月10日	ふれあいプラザ	①令和元年度事業報告、計算関係書類及び財産目録の承認について（監査報告） ②評議員選任・解任委員会運営規程の一部改正について ③評議員の選任候補者の推薦について ④第9回評議員選任・解任委員会の招集について ⑤理事候補者の選定について ⑥第61回評議員会（定時評議員会）の招集について
	第66回	9月17日	ふれあいプラザ	①第62回評議員会の招集について
	第67回	2月26日	辰口福祉会館	①理事候補者の選定について ②第63回評議員会の招集について ③評議員選任候補者の推薦について ④第10回評議員選任・解任委員会の招集について ⑤令和2年度会計収支1次補正予算（案）について
	第68回	3月23日	辰口福祉会館	①第64回評議員会の招集について ②定款の一部変更について ③令和3年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）について ④役員等賠償責任保険契約について

評議員会	第 61 回	6 月 29 日	辰口福祉会館	①令和元年度事業報告、計算関係書類及び財産目録の承認について (監査報告) ②理事の選任について
	第 62 回	9 月 25 日	辰口福祉会館	報告事項
	第 63 回	3 月 5 日	ふれあいプラザ	①理事の選任について ②令和 2 年度会計収支 1 次補正予算 (案) について
	第 64 回	3 月 23 日	辰口福祉会館	①定款の一部変更について ②令和 3 年度事業計画 (案) 及び会計収支予算 (案) について
評議員選任・解任委員会	第 9 回	6 月 18 日	ふれあいプラザ	評議員の選任
	第 10 回	3 月 15 日 (書面表決)	ふれあいプラザ	
監査会	5 月 26 日		ふれあいプラザ	令和 2 年度監査

- ・第 3 次計画の推進委員会及び評価委員会等を開催した。

ア 推進のための委員会

- ・こころに寄り添い合う人づくり委員会・・・10回開催
- ・見守り・助け合い推進委員会・・・10回開催

イ 進捗状況を確認し合うための委員会

- ・こころ豊かな地域づくりの会・・・4回開催

ウ 年度ごとの推進状況を評価するための委員会

- ・評価委員会・・・2回開催

③ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会を開催した・3回開催

④ファミリー・サポート・センター運営委員会を開催した・・・3回開催

⑤表彰審査会の開催（社会福祉功労者等表彰・能美たすかったわ～大賞・“きらり★福祉の魅力”フォトコンテスト）各 1 回開催

## (2)会員会費の募集

①コロナ禍を考慮し、特に推進月間を設けず 9 月から会員会費の募集に取り組み、まちぐるみで地域福祉活動を進める気運を盛り上げた。・・・資料 1

## (3)社会福祉大会の開催

第 16 回能美市社会福祉大会を開催し、地域福祉活動に功績のあった個人や団体に社会福祉功労者等表彰を授与し、地域ぐるみの福祉意識の気運を盛りあげた。

ア 月 日 9 月 25 日 (金)

イ 会 場 辰口福祉会館

ウ 社会福祉功労者等表彰を 25 名 5 団体に授与

エ 参加者 65 名 (コロナ禍のため、被表彰者と理事・監事・評議員とした)

#### (4) 第3次能美市地域福祉活動計画の推進

第3次計画の推進3年目の取り組みを市民の参加と協力を得て委員会を構成し、推進した。各委員会による自己評価と2つの委員会がそれぞれ評価し合い、その結果と評価委員による評価をもって、評価委員会の総合評価としてまとめ、理事会・評議員会で報告を行った。

#### (5) 春 まちばか プロジェクトの開催(2月21日(日)~2月28日(日)の8日間)

コロナ禍のため規模を縮小し、第3次計画の3年目の推進にかかる委員会の報告と協賛事業のみ開催した。協賛事業は次の①～⑥のとおり

- ① プルタブの換金による福祉用具の贈呈 ((株)たから海福祉会へ)
- ② 「能美たすかったわ～大賞」は、大賞1点、一般の部優秀賞3点、小学生の部優秀賞5点を表彰した (応募総数479作品)
- ③ 「“きらり★福祉の魅力” フォトコンテスト」は、最優秀賞1点、優秀賞2点を表彰した。 (応募総数53作品)
- ④ パネル展示「ありがとう！笑顔と元気のメッセージ」を前期・後期に分けて、市内2会場にて開催した。(能美市ボランティア連絡協議会、のみ社会福祉法人連絡会、ジュニアボランティアクラブ)
- ⑤ フードドライブを実施した。
- ⑥ ぽかぽかコンサート (老人福祉センター2館で各1回) を開催した。

#### (6) 福祉、ボランティア情報の発信

- ① 広報誌「ほほえみ」(年4回) ほほえみ60号から63号を発行した。
- ② 地域福祉・ボランティア活動報告集を発行した・・・[資料2]
- ③ ホームページ (アドレス <http://www.nomi-shakyo.jp/>) を随時更新し運営した。
- ④ 地域福祉推進のマスコット「のみんちゃん」のエアーフィギュアを製作した。

#### (7) 愛の福祉基金事業の実施

市民の善意による寄付金 (7件総額90,259円) を愛の福祉資金として積み立てた。

## II. 社会福祉関係者が一体となった地域福祉活動への支援

#### (1) 福祉関係者が行う地域福祉活動への支援

〈地域福祉委員会〉

①	地域福祉委員会への支援	根上地区 寺井地区 辰口地区	21ヶ所 23ヶ所 47ヶ所	91ヶ所	市内全町(内)会に設置されている。
---	-------------	----------------------	----------------------	------	-------------------

	活動ヒント探し 講座入門編の開催	10月1日～11月26日 (全3回)	地域福祉に対する理解のための入門的研修及び実習	19町(内)会より、講座受講修了者28名を地域福祉委員会活動推進員に登録した。 ※登録累計363名
	活動ヒント探し 講座実践編の開催	10月28日～12月8日 (月1回全3回)	各町(内)会で地域の課題把握のための手法として「住民流支え合いマップづくり」を行った。	地域福祉委員会活動推進員のいる町(内)会のうち4町(内)会9名が受講した。 ※高座町、緑が丘2、緑が丘4、緑が丘8)
	活動推進会議の開催	①7月28日～31日 「地域福祉委員会活動連絡会」 根上総合文化会館 寺井地区公民館 辰口福祉会館 ②2月21日 「地域福祉セミナー」 寺井地区公民館	①活動の充実のための協議と情報交換の機会として開催 ②基調講演「今でくる地域の見守り・助け合い「つながるためにできること」(講師:ローカリズム・ラボ代表 井岡仁志氏) (オンライン)	①189名参加 ②60名参加  これまでに実践編を修了した地域福祉委員会68町(内)会
②	いきいきサロン活動への助成 ※いきいきサロンとは町(内)会、町内会単位で行われている高齢者等の閉じこもりの予防や見守りのつどい	根上地区  寺井地区  辰口地区	設置数 20ヶ所 延べ参加者数 1,554名 延べボランティア数 519名  設置数 22ヶ所 延べ参加者数 3,045名 延べボランティア数 847名  設置数 37ヶ所 延べ参加者数 1,804名 延べボランティア数 545名	開催回数 88回  開催回数 280回  開催回数 141回  会員会費を財源とし、いきいきサロン79ヶ所へ、 総額2,656,600円を助成
	一人暮らし高齢者昼食会への助成	地域福祉委員会(いきいきサロン)が自治公民館等を会場に開催する一人暮らし高齢者昼食会に対し、助成した。	実施町会 30町会 参加者数 300名 対象者1名あたり700円を助成、 総額210,000円を助成	

	おでかけサロンへの助成	地域福祉委員会（いきいきサロン）で一人暮らし高齢者を含む参加者同士が、交流しながらおでかけする機会に対し、助成した。	実施町会 7町会 実施回数 8回 参加者数 140名 1町会年3回まで 6,500円を助成、総額52,000円を助成
③	いきいきサロンボランティアと福祉推進員合同研修会の開催	テーマ：安心の見守りにつなげるスマホ活用講座 LINEアプリ編 日時：2月26日（金）午前午後2回開催 場所：寺井地区公民館	参加者 41名
④	福祉推進員の委嘱と研修	任期2年で128名を委嘱（任期 令和4年3月31日まで） 研修に向けて福祉推進員連絡会を2回開催	活動費1人当たり5,000円、総額640,000円を助成
⑤	地区担当職員 (CSW・ふれあい相談員兼ねる) 6名の配置（兼務） ※地区担当制	ア 開催の案内のあった地域福祉委員会の会合464回の内、要請に応じCSWは105回出務した。 イ ふれあい相談員として、三ツ屋町市営住宅の要援護者の実態把握、(民生委員・児童委員の見守り安心マップの調査に同行)、能美資金の借入者の実態把握のための訪問、民生委員児童委員と共に歳末お見舞金の贈呈訪問等を行った。131回出務した。	

#### 〈民生委員児童委員協議会〉

①市及び3地区の単位民児協の事務局を担当し、活動を支援した。

#### 〈福祉団体、福祉活動グループ〉

①福祉団体（市・3支部の老人クラブ連合会、市・3支部の身体障害者福祉協議会、市母子寡婦福祉連合会）の各事務局を担当し、活動を支援した。

②地域福祉活動を推進するグループや団体の事務局を担当し、活動を支援した。

ア まだまだ元気な高齢者サポートグループほがらか会（会員数35名）

※ほがらか会は、能美市の総合事業の通所B（住民主体の通いの場）にあたる活動

会員研修は、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、中止

ほがらか会の開催状況は以下のとおり

	施設名	開催日と開催回数	延べ参加者数	延べボランティア数
根上会場	白寿会館	毎週木曜日・33回	122名	135名
寺井会場	亀齢荘	毎週金曜日・38回	164名	79名
辰口会場	辰口福祉社会館	毎週火曜日・40回	159名	84名

イ 能美市民防災ネットワーク（委員18名）+オブザーバー1名

※町会・町内会、壮年団、婦人会、民生委員・児童委員、防災士、子育て支援団体等によるネットワークの会。防災意識の醸成や啓発、助け合いを基盤とした災害時の災害ボランティアセンターの周知などを目的とした活動を行う。

定例会 6回

市民向け啓発研修会 1回企画したが、コロナ禍で中止した。

### 〈福祉施設、福祉事業所等〉

- ①のみ社会福祉法人連絡会が設立し、地域福祉活動推進のために連携。事務局担当  
設立総会 7月9日(木)  
会員：市内8社会福祉法人（喜峰會、泰耀、湯寿會、なごみの郷、南陽園、  
陽翠水、佛子園、能美市社会福祉協議会）  
幹事会：6回（設立までの準備会2回含む）  
福祉施設の職員研修 1回 コロナ禍のためにリモート研修を実施。

### （2）生活支援体制の基盤整備の推進（生活支援コーディネーター7名の配置）

- ①生活支援コーディネーターを7名配置した。  
1層（市全体を単位とする）生活支援コーディネーター1名と2層（中学校区を単位とする）生活支援コーディネーター6名の計7名を配置し、地域での生活支援の取り組みを進めた。市生活支援サービス推進協議体と連携。  
地区別2層生活支援コーディネーター会議 24回（各地区毎月1回）  
1、2層生活支援コーディネーター会議 3回
- ②たすけあい・ライフセイバーアクション支援講座＜第6期＞を開催した。  
住民の力を地域での活動に活かし、高齢者の日常生活の困りごとを助け合う取り組みを進めるために人材を養成した。  
講義：2月18日(木)、2月22日(月)  
受講：4名

### （3）ふれあいの場づくりの推進

- ①親子サロン（親子がふれあう場づくり）を開催した。  
市内3会場で、就学前の子どもとその親・祖父母等が、気軽にふれあい、ほっとできるような集う場を運営した。子育て経験をもつ市民6名をスタッフとして雇用し、経験を活かしてママ友相談も併せて行うなど、企画運営をした。

	施設名（会場）	開催日と開催回数	延べ参加者数
根上会場	西二口町公民館 (西二口コミュニティセンター)	毎週水曜日・40回	246名・122組の親子
寺井会場	栗生コミュニティセンター	毎週木曜日・36回	310名・145組の親子
辰口会場	岩内コミュニティセンター	毎週火曜日・37回	376名・183組の親子
通常の親子サロンの拡大版となる絵本カフェやのみん広場はコロナ禍で企画したが中止			

- ②ほっとあんしんサロン（介護をしている（していた）方々の思いを語り合う場づくり）を開催した。  
介護者の日頃の介護に対する思い、老年期を迎える不安等について、思いを語り合う機会として、年9回、毎月第2水曜日にふれあいプラザで開催した。能美市介護を考える会の協力を得て開催、延べ参加者は83名であった。
- ③福耳ネット、ぬくもりサロン（聴覚・視覚等コミュニケーションに不都合な方がふれあい集う場づくり）を開催した。

サロン	開催日・開催回数	会 場	延べ参加者数	内 容
聴覚に不都合のある方のつどい：福耳ネット	第4水曜日 年10回	寺井地区公民館	53名	交流と情報交換 手話サークルめだかの協力
視覚に不都合のある方のつどい：ぬくもりサロン	10月 7日（水） 10月 30日（金） 11月 30日（月） 12月 25日（金）	ふれあいプラザ ふれあいプラザ ふれあいプラザ 辰口福祉会館	24名	交流と情報交換 ボランティアほおづきの協力

④老人福祉センター（老人福祉センター「白寿会館」・寺井老人福祉センター「亀齢荘」）を運営した。運営状況は以下のとおり

	開館日数	延べ利用者数	備考
白寿会館	223日	13,405名	新型コロナウイルス感染拡大防止のため4/8～4/14は入浴のみ、4/15～5/31は休館
亀齢荘	289日	24,931名	
合 計	512日	38,336名	

⑤ふれあい福祉交流会は中止した。

※レクリエーションを通じ、障がいや認知症の有無にかかわらず、ふれあい交流する場  
福祉関係団体による実行委員会準備会において、コロナ禍のために中止を決定  
⑥福祉バスの貸出

福祉バス1台を地域福祉委員会いきいきサロンが実施する一人暮らし高齢者等のおでかけサロンや、身体障害者福祉協議会の外出の支援等に貸し出し、外出の機会を支援した。計15回、貸し出した。

⑦こころに寄り添い合う人づくり講座（こころに寄り添い合う人づくり委員会主催）

月 日：2月 23日（火・祝）

場 所：ふれあいプラザ

内 容：当事者の方の話を聞き、思いに寄り添った関わり方について  
考え、理解を深めた。

参加者数：31名

#### （4）見守りネットワークや生活支援活動の推進

①歳末お見舞金を贈呈した。

民生委員児童委員協議会とCSWが連携し、歳末時に各種福祉手当の受給者や施設入所者、生活に困窮している方々等にあたたかいお正月を迎えて頂くために、訪問し、お見舞金を贈呈した。また、毎月実施している「ふれあい弁当」の1月に福梅も添え、お正月の雰囲気を味わっていただいた。

実施期間：12月 11日～12月 31日

贈呈金額：総額 1,555,000円（一律 5,000円） 311件

②ボランティアによる手づくりお弁当を配達し、見守りを行った。（市内3会場にて調理）民生委員児童委員協議会等と連携し、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世

帶、障がいのある方、産前産後の方のいる世帯等に対し、1食200円で月6回、ボランティアによる手づくりお弁当を配達し、見守りをした。

ふれあい弁当の実施 ※ボランティアによる手作り弁当をボランティア等が届けることを通じて、地域の見守りの機会とした。民生委員・児童委員、福祉推進員、ボランティア等の協力を得て実施  コロナ禍により4~6月中10回中止  コロナ禍により、ボランティアによる調理については、10月より市内業者に協力を依頼した。	根上地区	月2回(第2・第4金曜日)	18回実施
		延べ提供食数	194食
		延べ協力ボランティア数	162名
	寺井地区	月2回(第1・3水曜日)	21回実施
		延べ提供食数	411食
		延べ協力ボランティア数	185名
	辰口地区	月2回(第2・4火曜日)	18回実施
		延べ提供食数	308食
		延べ協力ボランティア数	249名
	子育て応援弁当として、産前~産後2ヶ月までのママとその家族に届け、子育てを応援した。(要件有)		
			基本月6回 年34回実施
			利用実人数 29名
			延べ提供食数 450食
学習応援弁当として、小学校4~6年生と中学校3年生の夏休みにあわせた学習支援の場に、手作り弁当を届け、応援した。 (要件有)			回数 年2回実施
			利用実人数 12名
			延べ提供食数 12食
「ひな弁当・もみじ弁当」としての、市内3中学校のボランティア活動の機会は、コロナ禍のために中止した。			

#### 「調理ボランティアの感謝のつどい」の開催

コロナ禍のために、長年続けてきたボランティアによる、ふれあい弁当の調理を令和2年9月で終了した。(以後は業者で対応)これまで携わってこられた調理ボランティアが集い歩みを振り返った。また、令和3年度より調理を担う5法人への引継ぎの機会とした。 参加39人

#### ③視覚障害のある方へ広報「のみ」等の音訳テープを提供した。

音訳テープの提供	視覚に不都合のある方に対し、音訳ボランティアたんぽぽの協力を得て、広報のみ、議会だより、社協広報誌ほほえみをテープに音訳、提供了。	利用者 4名 その他図書館などへ提供
----------	---	-----------------------

#### ④一人暮らし高齢者等へ傾聴ボランティアを派遣した。

傾聴ボランティアの訪問	石川県が、H23年度に開催した傾聴ボランティア養成講座の受講修了生が、能美市で傾聴ボランティアとして登録、活動した。 また、傾聴ボランティア「うなづき」の年間2回の専門研修や連絡会の実施を支援した。	訪問対象者は6名(一人暮らし高齢者等) 登録した傾聴ボランティアは32名 年間25回訪問
-------------	--	--

⑤子育て応援ヘルパーを派遣した。

子育て応援ヘルパーの派遣（利用要件有）	産前の体調不良の時期、または産後間もない時期等に家族から支援を受けられない方等に対し、母子保健コーディネーターと連携し、家事や育児の手伝いを行う子育て応援ヘルパーを派遣した。	ヘルパー登録人数 33名 利用実人数 4名 延べ利用日数 70日
---------------------	---	--

### （5）生活支援の取り組みの拡充

①フードドライブ実施及び、「のみフードドライブ連絡会」設立、その活動を支援した。

コロナ禍の影響で、生活困窮等の問題が明らかになったことから、フードドライブを実施した。さらに寄付する側、集める側、配る側、受け取る側それぞれが、よりよい「助け合い活動」にするために「のみフードドライブ連絡会」を設立。

フードドライブ実施 6月、9月、12月、2月 計 5,067 品の寄附

のみフードドライブ連絡会 4回

市民向け研修会の開催

「フードドライブのつながりから生活支援 そして、共生社会を考えよう！」

月 日：2月 22日（月）

会 場：ふれあいプラザ

講 師：同志社大学社会学部 教授 永田 祐氏（オンライン）

参加者：28名

②つなぐ号貸出事業を実施した。（買い物や外出支援活動の支援）

町会（地域福祉委員会）の買い物・外出支援の活動を対象に、市商工まちづくり研究会所有の車両を本会が借受け、貸出事業を進めた。

貸出先：粟生町、緑が丘、下開発町

回 数：59回

延べ利用者：125名

3月に能美ロータリークラブから、生活支援活動活用として車両が寄贈された。

## III. 福祉意識の醸成のための福祉教育の推進と住民の互助活動の支援

### （1）ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営

ボランティア・コミュニティ活動支援センターを運営し、福祉の人づくりや地域づくりを進めた。（ボランティア・コミュニティ活動支援センターのホームページをアドレス変更し、本会ホームページに整備した。）ボランティアセンターだよりもホームページに掲載し、ボランティアに関する情報を発信した。

①ボランティアに関する相談窓口

〈登録〉 97 グループ 3,576名 (R3.3.31現在)

〈相談・斡旋〉 25 件

	斡旋先 相談の内容	地域福祉委員会 いきいきサロン	福祉 施設	保育園 学校等	企業 団体	その 他	件数 合計
1	イベントにかかる活動	3			1	1	5
2	高齢者・障害者への支援にかかる活動						0
3	子育て支援にかかる活動						0
4	福祉教育にかかる活動			9			9
5	文化・伝承にかかる活動						0
6	環境保全にかかる活動						0
7	国際交流にかかる活動						0
8	防災にかかる活動						0
9	健康促進にかかる活動				1		1
10	その他					10	10
	合 計	3	0	9	2	11	25

〈ボランティア機材の貸出〉 37 件

	貸出先	機 材	件数
1	町（内）会の夏祭りや地域福祉委員会いきいきサロン	綿菓子・ポップコーン・かき氷製造器・プロジェクター、ストラックアウト等	17
2	要介護者の移動	車いす	0
3	学校等での福祉体験	車いす	8
4	ボランティアグループの活動	アンプ、マイク、DVD	9
5	その他		3
	合 計		37

〈各種の収集窓口（ボックス）の設置〉

老人福祉センター「白寿会館」、老人福祉センター「亀齢荘」、G-Hills、ふれあいプラザに収集窓口としてボックスを設置した。

収集物	収集取扱い団体	送付先	使途
エコキャップ	株式会社 日本海開発	日本委員会（JVC） ～世界の子どもにワクチンを～へ	エコキャップ 860 個で子供 1 人のポリオワクチンになる。
プルタブ	能美市社会福祉協議会 ボランティア・コミュニティ活動支援センター	令和 2 年度に集めたプルタブは、合計 165 kg 金属廃品回収業者に売却、換金し、施設等に福祉用具を寄贈するための資金として積み立てた。	
ベルマーク	ボランティアグループ 「山ぼうしの会」等	ベルマーク財団へ	ベルマークは 1 点 1 円になる。一部は発展途上国の教育支援に使われ、一部が集めた地域の学校教育備品の購入に使われる。

使用済インクカートリッジ	石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター	キャノン・エプソン・リコーなどの企業へ	使用済インクカートリッジの回収を通じて、ベルマーク運動に参加。使途はベルマークに同じ。
古切手、書き損じハガキ		公益財団法人ジョイセフ（家族計画国際協力）へ	アジア・アフリカ中南米の発展途上国の保健活動（予防接種や保健師の活動）の助成に使われる。
使用済プリペイドカード等			

## ②ボランティア講座の開催

各種ボランティア講座を開催し、ボランティアへの関心を掘り起こし、その活動を支援した。

事業（講座）名	実施月・回数	参加人数	内 容
ジュニアボランティアクラブ・・・[資料4]	11～12月 (全3回)	計17名 延べ47名	①ボランティアについての学び、車イス・アイマスク体験、障がいのある方の話しを聞き質問をしてみよう！ ②福祉施設職員へコロナに負けるな応援メッセージの作成、のみ社会福祉法人連絡会への贈呈。 ③歳末たすけあい募金活動と振り返り ※ボランティアグループや障がいのある方等とともに体験
中学生ボランティアチャレンジ体験	10月～3月 (全3回)	延べ182名	中学校生徒会が自分たちで体験を企画 ①根上中学校(10月6日) 「We are 松々レンジャーズ！！大きな松を育てマツ」 ②寺井中学校(3月18日) 「アイシティ eco プロジェクト活動と収集物について知ろう！！」 ③辰口中学校(12月10日) 「エコキャップ週間」
高校生ボランティアチャレンジ体験	11月～12月 (全2回)	延べ26名	①フードドライブ学習会 ～フードドライブの意義を学ぶ～ ②フードドライブ体験 ～フードドライブの受付と仕分けの体験～
企業ボランティアセミナー	2月24日	30名	はくさん信用金庫 「誰もが安心して暮らせる共生の地域を目指して～聴覚障がいの理解を深める～」(講師：新田照予氏)

③ボランティア保険加入を助成した。

ア ボランティア活動保険 2,581人 総額 910,350円

　A保険に加入（掛金350円 市社協150円と県社協が200円を負担）

イ ボランティア行事用保険 73件 総額 92,400円

　A保険とB保険（宿泊を伴う行事）に加入

④ボランティアグループ及びコミュニティ活動団体に助成した。（要件有）

8 グループに対し計 308,000円を助成した。（共同募金財源による）

手話サークルゆず（32,000円）、オカリナ倶楽部九谷まほろば（50,000円）

舞踊集団菊の会（33,000円）、能美市介護を考える会（50,000円）、てらい愛唱会

（50,000円）、辰口地域更生保護女性会（27,000円）、能美市音訳ボランティア

たんぽぽ（16,000円）、のみ・子育てネットワーク（50,000円）

⑤ボランティア連絡協議会の活動助成と活動を支援した。（共同募金財源による）

能美市ボランティア連絡協議会（市・3地区）の活動を事務局として担当、支援した。（能美市ボランティア連絡協議会情報誌「ボラはあと」の年2回発行支援含む）

⑥福祉協力校に指定、活動助成をした。

ア 市内7小学校、3中学校、1高等学校を対象とし、総額860,000円を助成した。（うち、浜小は県社協の福祉協力校の指定）

イ 福祉協力校連絡会を開催した。

日 時：8月18日（火）10時00分～11時30分

会 場：寺井地区公民館

参加者：27名

講 演：「地域環境を活かした人づくり」

講 師：金沢星稜大学人間科学部 教授 池田幸慶氏

ウ 福祉協力校における福祉教育カリキュラムなどに情報提供するなどし、支援した。（講師の派遣、情報提供）

⑦ボランティアセンターだよりを発行した

ア 社会福祉協議会広報誌「ほほえみ」に併せ、年4回発行した。

イ ホームページでボランティア情報を発信した。

⑧災害ボランティアセンター立ち上げ運営にかかる研修や訓練を行った。

B C P（災害時に備える社会福祉協議会の福祉的事業継続計画）や、コロナ禍による感染予防対策等について、職員間で共通認識し、体制整備について研修した。

日 時：11月17日（火）17時30分～19時

会 場：ふれあいプラザ

参加者：27名

講 演：「災害V Cの運営と社協のB C Pについて考える」

講 師：広島県江田島市社会福祉協議会 総務課長 河内邦大氏

⑨第13回能美市民ボランティアフェスティバルは中止した。

ボランティア等による実行委員会準備会において、コロナ禍のために中止決定。しかし、その代わりとして、ボランティア等活動紹介に限定した「ありがとう！笑顔と元気のメッセージパネル展示」を開催した。（春まちぽかぽかプロジェクトの協賛事業）

[前期] 日 時：2月21日（日）～26日（金）10時～16時

会 場：能美ふるさとミュージアム

[後期] 日 時：2月27日（土）～28日（日）10時～15時30分

会 場：寺井地区公民館

前後期合計参加者：

⑩情報交換、交流の場としての喫茶「あい・テラス」はコロナ禍のために中止した。

(2)ファミリー・サポート・センターの運営・・・別記1 17ページ

#### IV. 生活上の多様な問題の相談窓口の開設

(1)寺井あんしん相談センター(寺井高齢者支援センター)の運営・・・別記2 21ページ

(2)暮らしサポートセンターのみの運営・・・別記3 25ページ

#### V. 居宅介護支援事業所の運営及び生活援助サービスの提供

(1)能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所の運営・・・別記4 29ページ

##### (2)福祉移送サービス事業の運営

公共交通機関を利用しにくい方の移動を車いす対応車で支援した（要件有）

当該年度末登録者数	19名
延べ利用回数（片道を1回とする）	117回
稼働実日数	58日

(3)生活支援たすけあい・ライフソポーター（介護予防・日常生活支援サービスのうち、訪問

##### B(住民主体による援助))の派遣

ア 1～5期受講修了生による「たすけあい・ライフソポーターえがお会」（会員26名）の定例会、研修会等、その活動を支援した。

イ 依頼に応じて「たすけあい・ライフソポーター」を派遣した。（実利用者数5名 派遣回数 延べ118回）

## 【能美市ファミリー・サポート・センター事業報告】

### 1. 総括

令和2年度は、コロナ禍でファミサポの活動の継続について不安な状況の中、協力会員の「こんな時だからこそ力になりたい」という思いを確認し、感染予防対策をとりながら、援助を継続することができた。コロナ禍の影響としては、習い事が中止のため送迎が減少したことや、保護者の就労状況により送迎や預かりのキャンセルがあった。反面、増加したのが障がいをもつ子供の送迎で約1.6倍となった。また、精神面で不安定な方からの依頼が多く、コーディネートに苦慮する場合もあり、一定の協力会員に頼る傾向となっている。多様なニーズを受けとめるには、協力会員の協力が不可欠であり、地域とのつながりが重要と考える。

協力会員の養成講座については平成29年度から前期・後期で年2回のコースを実施してきたが、コロナ感染拡大防止の観点から今年度は後期の1回と、フォローアップ研修を開催し、新規・既存会員の子育て支援に関する適切な知識や技術の向上に努め、安全・安心な援助活動につなげた。また、登録会員を対象に、普段の子育ての状況や子育て支援に対する意見や感想等についてアンケート調査を実施し、今後の援助活動の向上や研修の見直し、会員募集等について検討するための参考とした。

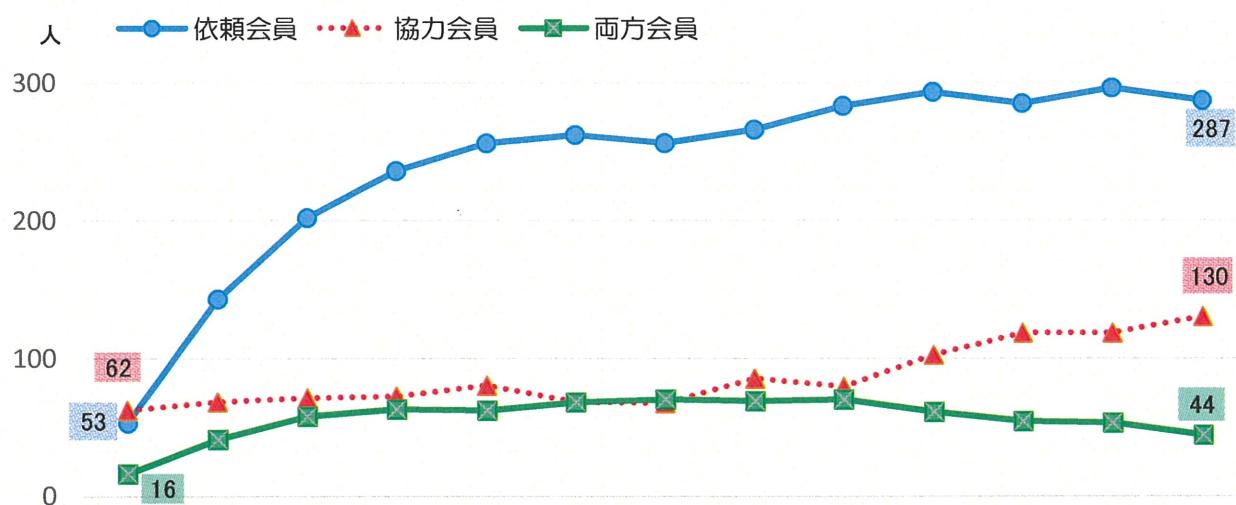
令和3年度より、ファミリー・サポート・センター事業は、関係機関との連携を図り、より充実した子育て支援をすすめる為に、市が直営することになった。

### 2. 事業状況

- ① 会員の募集・登録 相互援助活動の調整
- ② 協力会員養成講座・フォローアップ研修等の開催
- ③ 会員交流会の開催（新型コロナ感染拡大防止の為中止）
- ④ ファミサポ通信の発行（年1回）
- ⑤ 登録会員向けアンケート調査の実施

### 3. 令和2年度 ファミリー・サポート・センター活動報告

- ① 登録会員数の年度別推移



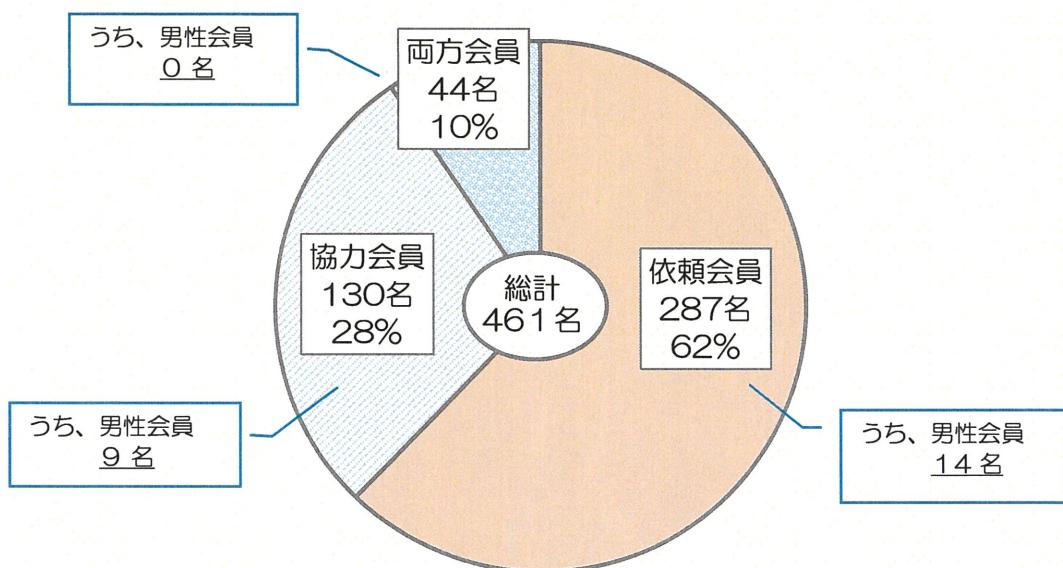
	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
依頼会員	53	143	202	236	256	262	256	266	283	293	285	296	287
協力会員	62	68	71	72	80	68	67	85	79	102	118	118	130
両方会員	16	41	58	63	62	68	70	69	70	61	54	53	44
合計	131	252	331	371	398	398	393	420	432	456	457	467	461

## ② 会員割合

現在、会員数は 461名。

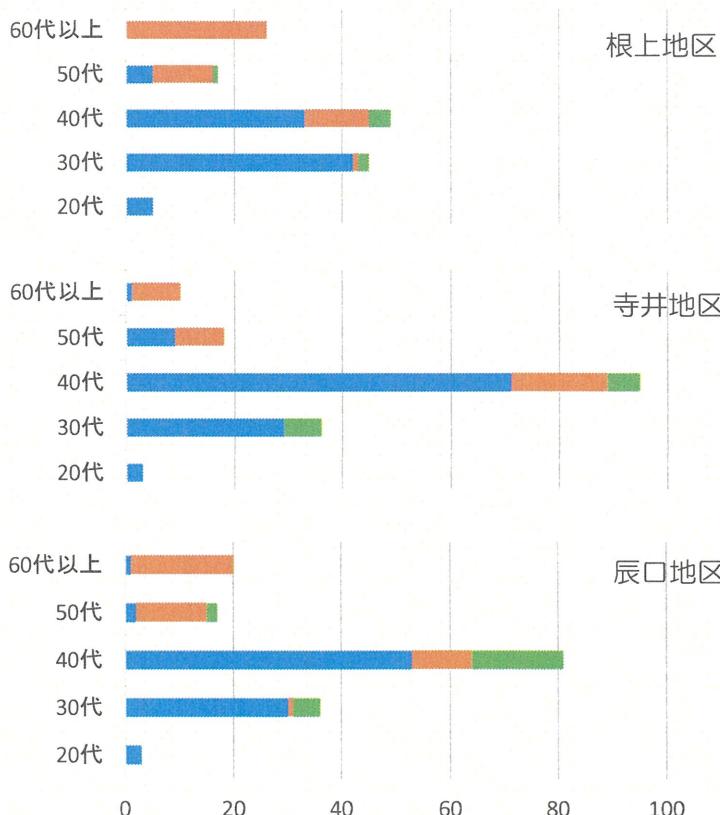
もっとも多いのが、依頼会員の287名(62%)、協力会員は130名(28%)で横ばい。また、両方会員は44名(10%)であり、協力会員は前年度比わずかに増加したが、依頼会員の半数にも達しておらず、横ばいの状況が続いている。

また、男性会員は、依頼会員14名(全体の3%)、協力会員は9名(全体の2%)にとどまっている。



## ③ 地区別・年代別会員数

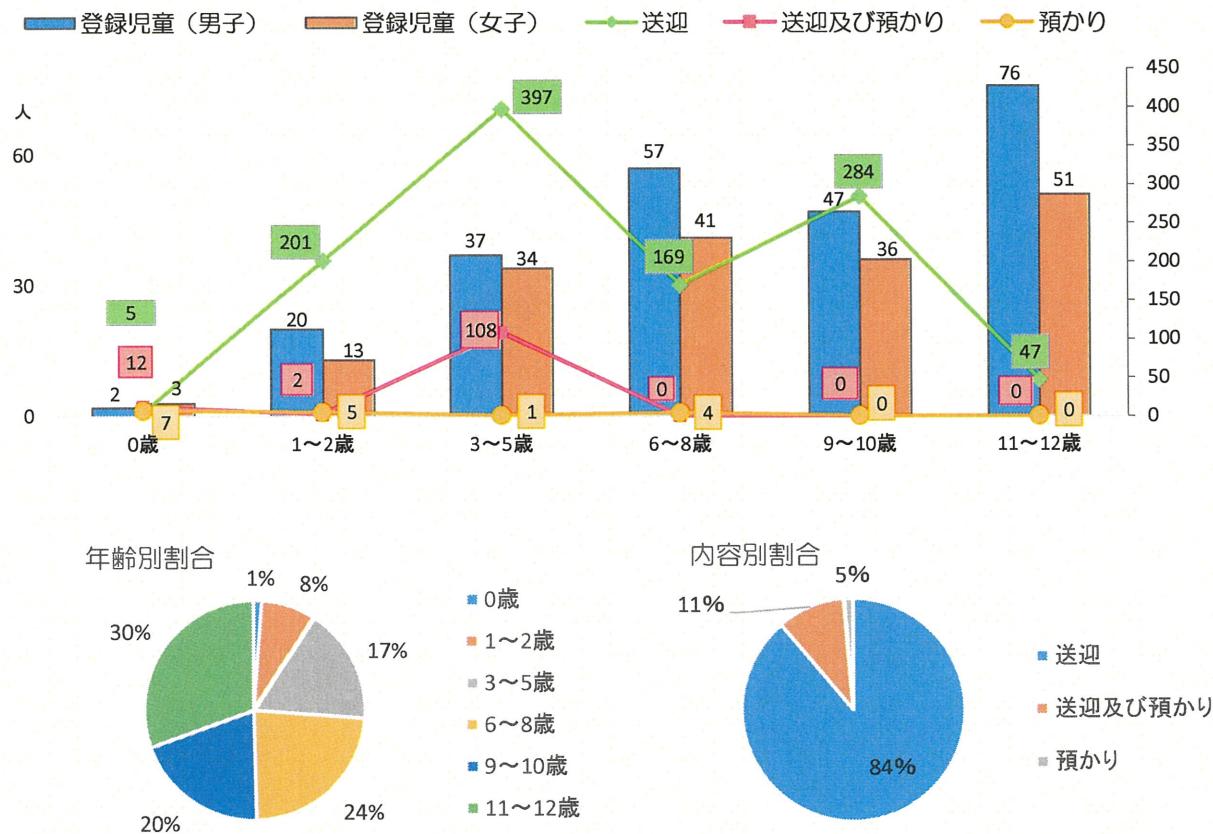
年代別のグラフで見ると、30代、40代の会員数は多いが、依頼会員が全体の半数以上を占めており、協力会員は、全体の3割程度で、年齢の高い層に集中していることがわかる。地区別で見ると、依頼会員に対する協力会員の割合は、3地区でバラツキが見られる。



地区別	会員種別	20代	30代	40代	50代	60代以上	総計
根上	依頼	5	42	33	5	0	85
	協力	0	1	12	11	26	50
	両方	0	2	4	1	0	7
小計		5	45	49	17	26	142
寺井	依頼	3	29	71	9	1	113
	協力	0	0	18	9	9	36
	両方	0	7	6	0	0	13
小計		3	36	95	18	10	162
辰口	依頼	3	30	53	2	1	89
	協力	0	1	11	13	19	44
	両方	0	5	17	2	0	24
小計		3	36	81	17	20	157
総計		11	117	225	52	56	461

#### ④ 子どもの年齢構成と依頼件数 及び活動内容別件数

子どもの年齢構成をみると、小学1年生から6年生まで（6～12歳）の割合が全体の約7割以上を占めているが、依頼件数では、1～2歳 208件（17%）、3～5歳 506件（41%）と未就学児の割合が高く、1歳以上は、送迎が急激に増加していることがわかる。依頼のあった活動内容詳細の上位は「保育園・幼稚園の送迎」、「障がいを持つ子供の送迎」、「保育園・幼稚園の送え及び帰宅後の預かり」「子供の習い事等の場合の援助」となっている。



#### 活動内容別件数

活動内容	令和元年度 総計①	令和2年度 総計②	差 (②-①)	備考
保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	0	0	0	
保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	82	122	40	母親の就職により預かり依頼。
保育園・幼稚園の送迎	569	587	18	
学校の送迎	20	12	▲8	
学校の放課後の預かり	0	0	0	
学童クラブの送迎	119	42	▲77	定期利用者が中学生になった。
学童クラブの迎え及び帰宅後の預かり	63	0	▲63	定期利用者が中学生になった。
子供の病後児の送迎	3	0	▲3	
子供の病後児の預かり	0	0	0	
子供の習い事等の場合の援助	148	113	▲35	コロナ禍で中止があった
保育所・学校等休み時の援助	0	0	0	
保護者等の就労の場合の援助	48	0	▲48	
保護者等の短時間・臨時の就労の場合の援助	0	0	0	
保護者等の冠婚葬祭による外出	2	0	▲2	
他の子供の学校行事の場合の援助	16	0	▲16	
保護者等の外出の場合の援助	11	0	▲11	
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	1	0	▲1	
障がいを持つ子供の送迎	210	349	139	対象者が増えた。
障がいを持つ子供の預かり	0	1	1	
その他の送迎	15	0	▲15	
その他の預かり	3	0	▲3	
合計	1,294	1,242	▲52	

## ⑤ 協力会員養成講座及びフォローアップ研修

新規会員及び既存会員向けに、子育て支援に関する適切な知識や技術を学ぶ機会として、協力会員養成講座を後期1回と、フォローアップ研修を開催し、安全・安心な援助活動の広がりに繋げた。（※必須科目：救命救急講習、事故防止に関する講習）

		時期	時間	内 容	場 所	講 師	参 加 人 数
養成講習 後期	1	10/13(火)	9:00～ 10:00	ファミサポ・子育て応援ヘルパー事業説明	能美市 ふれあい プラザ	市健康推進課及び ファミリー・サポートセンター職員	3
	2		10:00～ 12:00	育児の支援について（講義及び実習）～沐浴のさせ方、ミルクの与え方～		市健康推進課 職員	
	3	10/14(水)	13:30～ 15:30	子どもとの関わり方について		市子ども発達支援センター職員	6
	4	10/21(水)	10:00～ 12:00	子育ての社会的支援について		金城大学 短期大学部 幼稚園教育学科 客員教授 和泉 美智枝 氏	7
	5	11/9(月)	9:00～ 12:00	救命救急講習会		能美市消防本部職員	10
	6	11/12(木)	10:00～ 12:00	子育てアドバイス 「ありがとういっぱい運動」 *子育て支援センター公開講座		多賀クリニック小児科 多賀 千之先生	6
	7	11/27(金)	9:00～ 13:00	子どもの栄養と食生活（講義）及び調理実習	サンテ	健康推進課 職員	4
フォローアップ研修	1	1/27(水)	10:00～ 12:00	子育て支援の意義と役割	能美市 ふれあい プラザ	石川県南加賀 保健福祉センター 所長 沼田 直子氏	7
	2	1/28(木)		子どもの心と身体の発達とその問題		金城大学 短期大学部 幼稚園教育学科 客員教授 和泉 美智枝 氏	8
	3	2/12(金)		精神・発達障害についての基礎知識と関わり方		ファミリー・サポートセンター職員	7
	4	2/19(金)		安心安全に支援するための事故防止に関する講習（リスクマネジメント）			6

## ⑥ 会員交流会及び普及啓発（親子サロンとの交流：ミニ運動会・絵本カフェ）

ファミリー・サポート・センター及び、市内3地区で開催している親子サロンの周知・交流を目的に毎年「ミニ運動会」「絵本カフェ」を開催していたが、新型コロナ感染拡大防止の為中止となった。乳幼児4か月児健診には、コロナ禍のため会場に出向いての説明はできなかったが、パンフレットのみ配付した。

## ⑦ 登録会員を対象としたアンケート調査を実施（期間：令和2年12月7日～21日） (依頼291名、協力会員134名、両方会員46名、回答率20%)

援助活動の向上や研修の見直し、会員募集等について検討するための参考とすることを目的に、普段の子育ての状況や子育て支援に対する意見や感想等についてアンケート調査を実施した。会員になった理由として、依頼会員では、「いざという時に援助を依頼したいから」が最も多く62.2%だった。依頼した理由については、「仕事」「自分の用事のため」がそれぞれ39.5%、次いで「リフレッシュのため」「自分の病気のため」との回答があり、依頼しなかった理由については、「家族や親せきの援助があった」「依頼する必要がなかった」が多かった。協力会員では会員になった理由として、「子育て中の親を援助したかったから」「子どもが好きだから」「時間があり何かをしたかった」の順となっている。活動したことがない理由では「就職したから」「すべての講習を受けていないから」また、「依頼の連絡がなかった」との回答があった。今後の活動については「条件が合えば活動したい」が72%だった。

## 【能美市寺井あんしん相談センターの運営業務報告】

### 1. 総括

高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者などの総合相談窓口の拠点となれるよう、あんしん相談センターの事業の運営を能美市より受託し、相談に応じ、支援した。また、自立支援・重症化予防を基本とした介護予防プランの作成及び、能美市地域包括ケアシステムの構築を推進した。

### 2. 事業状況

#### ① 総合相談支援業務

- ア 高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者などの相談に応じ、関係機関に繋いだ。
- イ 複数の課題を抱える世帯に対し、関係機関と連携、課題を共有するとともに、必要に応じて地域ケア会議を開催し、課題解決に向けての支援の方向を検討した。

#### ② 権利擁護業務

- ア 成年後見制度・権利擁護に関する相談に応じ、成年後見制度の利用やくらしサポートセンターのみと連携し福祉サービス利用援助事業の利用に繋げた。
- イ 高齢者虐待については、相談9件中、5件を能美市の虐待判定会議に繋ぎ、虐待対応計画に基づいて支援した。また、虐待通報がされにくい中、総合相談の段階からアンテナを立て、早期発見を心掛け、成年後見制度の相談等も併せて、権利侵害の防止や早期対応に努めた。

#### ③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援

- ア 各地区あんしん相談センターが連携してケアプラン会議を開催し、自立支援を目的としたプランの検討及びプランを作成する介護支援専門員に対し支援・指導をした。また、介護支援専門員が相談しやすい対応を心がけ、困難事例を一人で抱え込まないよう支援し、処遇困難事例検討会に繋げるなどした。
- イ 地域における連携・協働の体制づくりのため、地域ケア会議を手法とし、個人や地域の課題を発見し、地域づくりに繋がるよう話し合いをした。また、民生委員や町会長等の地域の支援者と、医療や介護の専門職、CSWなど多職種の関係機関とのネットワーク作りを推進した。

#### ④ 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント支援業務

- ア 要介護者や事業対象者が、主体的に介護予防・自立支援に取り組むために、自己選択、決定できるよう配慮しながら介護予防プランを作成し、支援した。
- イ 一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業である、「おげんき俱楽部のみ」

や「のみ活俱楽部」、地域で開催される「いきいきサロン」等にも出向き、参加者の状況を把握するとともに、介護予防の普及啓発に取り組んだ。

#### ⑤ 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み

- ア 地域生活医療コーディネーター、第二層生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、地域ケア会議推進員にそれぞれ担当職員を配置するとともに、在宅医療と介護連携の充実を推進する専門部会メモリーケア・ネットワーク能美、地域での支え合いを検討する第1・2層生活支援コーディネーター会議に参加し、積極的に課題に取り組んだ。
- イ 寺井地区を単位とした日常生活圏域会議を1件、町会や関係機関を単位とした課題別検討会議を43件、個別のケースに関する関係者が参加するネットワーク会議を29件開催した。日常生活圏域会議では、あんしん相談センターの活動報告を行い、相談内容からみえてきた課題について報告し、コロナ禍での今後の支援に繋げることを圏域関係者で確認した。
- ウ 地域での出前講座を4件開催し、介護予防に対しての啓発、理解を広げた。

#### ⑥ 職員の資質向上

石川県、能美市、各職能団体等が実施している研修会に積極的に参加した。研修参加後は復命書を回覧することでセンター職員全員が共有し、必要な知識や技法等の取得に努めた。

#### ⑦ コロナ禍での取り組み

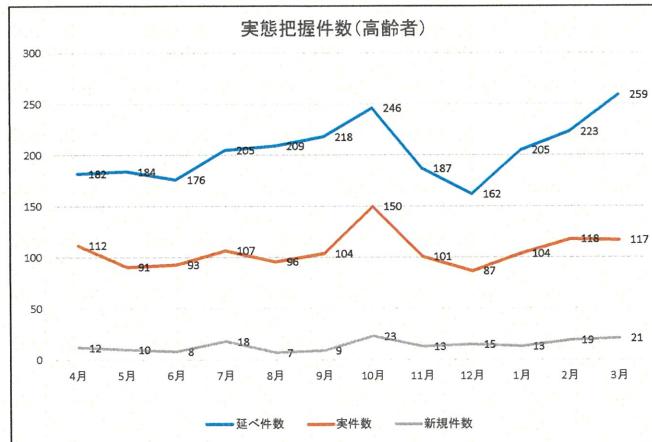
- ア 一人暮らしや虚弱な高齢者等に対して、感染予防のための外出自粛に伴うニーズ調査を実施し、実態を把握した。
- イ 新型コロナウイルス感染症に関する出前講座を行った。また、厚生労働省から届いたマスクと一緒に、感染予防やフレイル（虚弱）予防のチラシを添えて配布し、介護予防の周知、意識啓発を図った。
- ウ 地域福祉委員会等の地域の会に参加し、コロナ禍による地域の状況を把握、共有するとともに、高齢者等の相談を繋いでいただけるよう協力を依頼し、連携を図った。
- エ 新型コロナウイルス感染症に関する勉強会や研修会に積極的に参加し、職員の感染予防対策を徹底した。

令和2年度は、75～79歳の相談者の増、生きがいや趣味活動が行えないことによる閉じこもり、認知症の進行、足腰の筋力低下等の相談が多くみられた。このことをふまえ、令和3年度はコロナ禍の暮らしが続く中でのフレイル予防について取り組みたい。

## 令和2年度 能美市寺井あんしん相談センター 実績報告

### 1. 実態把握件数（高齢者・64才以下介護相談含む）

	延べ件数	実件数	新規件数
4月	182	112	12
5月	184	91	10
6月	176	93	8
7月	205	107	18
8月	209	96	7
9月	218	104	9
10月	246	150	23
11月	187	101	13
12月	162	87	15
1月	205	104	13
2月	223	118	19
3月	259	117	21
合計	2,456	1,280	168



### 2. 実態把握・相談の状況（高齢者・64才以下介護相談含む）

	窓口	電話	訪問	その他	合計
4月	27	101	46	7	181
5月	26	110	44	3	183
6月	39	82	48	7	176
7月	36	101	49	17	203
8月	41	100	60	6	207
9月	42	120	44	7	213
10月	49	109	81	10	249
11月	33	95	53	5	186
12月	22	87	43	10	162
1月	34	141	21	10	206
2月	33	131	52	10	226
3月	43	133	73	15	264
合計	425	1310	614	107	2,456

### 3. 地域活動支援・出前講座の状況

	地域活動支援	出前講座	認知症サポーター養成講座
4月	3	0	0
5月	0	0	0
6月	1	0	0
7月	5	0	0
8月	6	0	0
9月	1	0	0
10月	11	3	0
11月	5	1	0
12月	4	0	0
1月	1	0	0
2月	4	0	0
3月	4	0	0
合計	45	4	0

### 4. 地域ケア会議（高齢者世帯、高齢者を含む障がい者・困窮者世帯）

	日常生活圈域会議	課題別検討会議	ネットワーク会議
4月	0	0	2
5月	0	0	1
6月	0	5	5
7月	0	4	2
8月	0	3	4
9月	0	5	2
10月	0	6	4
11月	0	4	0
12月	0	4	3
1月	0	5	3
2月	0	3	1
3月	1	4	2
合計	1	43	29

### 5. 連絡調整業務の状況

	介護認定申請受付	高齢者福祉に係る受付	住宅改修・福祉用具に係る受付
4月	18	5	4
5月	23	2	5
6月	20	5	6
7月	19	1	2
8月	24	3	5
9月	21	4	10
10月	29	2	6
11月	16	5	9
12月	14	0	4
1月	18	1	3
2月	28	2	6
3月	35	18	10
合計	265	48	70

## 6. 介護予防支援

	直営プラン	外部委託 プラン	委託料支払 額(A)	合計プラン 件数	合計収入額 (B)	センター収入 (B) - (A)
4月	16	46	194,480	62	276,220	81,740
5月	15	45	183,600	60	261,600	78,000
6月	20	42	173,260	62	276,220	102,960
7月	17	42	173,260	59	260,290	87,030
8月	17	43	177,340	60	261,600	84,260
9月	16	41	169,180	57	248,670	79,490
10月	16	41	169,180	57	248,670	79,490
11月	17	43	177,340	60	264,600	87,260
12月	17	45	187,400	62	273,220	85,820
1月	17	45	183,600	62	267,220	83,620
2月	20	46	189,580	66	293,460	103,880
3月	20	46	191,480	66	290,460	98,980
合計	208	525	2,169,700	733	3,222,230	1,052,530
前年度	199	509	2,103,930	708	3,135,130	1,031,200

## 7. 介護予防ケアマネジメント

	直営プラン	外部委託 プラン	委託料支払 額(A)	合計プラン 件数	合計収入額 (B)	センター収入 (B) - (A)
4月	10	8	24,900	18	64,320	39,420
5月	8	7	23,400	15	56,810	33,410
6月	25	8	24,900	33	105,450	80,550
7月	21	8	24,900	29	101,760	76,860
8月	17	8	26,800	25	75,520	48,720
9月	19	7	23,400	26	80,120	56,720
10月	19	9	28,980	28	92,740	63,760
11月	24	11	40,940	35	131,490	90,550
12月	23	12	42,440	35	113,780	71,340
1月	22	11	37,140	33	107,580	70,440
2月	22	12	37,960	34	109,180	71,220
3月	21	12	37,960	33	107,870	69,910
合計	231	113	373,720	344	1,146,620	772,900
前年度	197	113	370,540	310	948,990	578,450

## 8. 介護予防ケアマネジメント 内訳

	スマイルヘル パー / スマイ ルティサービス ス	健幸ライフ教 室 / 健幸ラ イフ訪問リハ ビリ	あんしんサ ポーター / は づらつティ サービス	たすけあい サポート / ほ がらか会
4月	7	5	6	0
5月	6	5	4	0
6月	11	4	10	8
7月	9	7	8	5
8月	8	4	8	5
9月	9	3	9	5
10月	8	6	10	4
11月	12	7	12	4
12月	10	8	13	4
1月	10	8	12	3
2月	10	8	13	3
3月	11	7	12	4
合計	111	72	117	45

## 9. 障がい者や生活困窮者(64歳以下)の相談の状況

	業務内容	件数
1	障がい者の相談(延)	127
2	生活困窮の相談(延)	35
3	支援チーム会議参加	4
4	地域ケア会議開催	0

## 【くらしサポートセンターのみ 事業報告】

### 1. 総括

生活困窮者自立相談支援事業を軸として、福祉サービス利用援助事業、生活福祉資金貸付事業、弁護士無料相談事業等を行い、社会的孤立者や経済的に困窮する恐れのある者が困窮状態から早期に脱却することを目標に、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援を実施した。

### 2. 事業状況

#### ①生活困窮者自立相談支援事業

- ア 困りごとに関する相談に幅広く応じ、就労支援を行う等、本人の状況に応じた自立に向けた相談支援を実施した。また、生活に困窮する方に対して、フードドライブの食糧を配付し、生活が維持できるよう支援した。
- イ 支援調整会議を毎月開催し、関係者によるプランの検討、情報共有、連絡調整を行った。
- ウ 民生委員等の地域の支援者や、あんしん相談センター、相談支援事業所、居宅介護支援事業所等の多職種の関係機関と連携し、ネットワークづくりに取り組んだ。

#### ②福祉サービス利用援助事業

高齢や障がいなどで判断能力に不安のある方や日常生活に不安のある方が、地域で安心して生活できるように、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭の管理等を支援した。また、必要に応じて、多機関と連携を図った。

#### ③生活福祉資金貸付事業

- ア 所得が少ない世帯、障害者世帯、高齢者世帯、失業された方等が安定した生活が送れるように、資金の貸付に関する必要な相談支援を行った。
- イ 新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少し生活に困窮する方に対して、生活福祉資金の特例貸付の相談窓口を設置し、相談支援を行った。また、相談の中から生活困窮者自立相談支援事業に繋げ、困窮から脱却できるよう支援した。

#### ④弁護士・行政書士の無料相談事業

弁護士や行政書士が、日常生活の中で起きる法律に関わる問題について、無料で相談に応じた。

#### ⑤心配ごと相談所の運営

相談員が、市民の日常生活上のあらゆる相談に応じ、適切な助言、指導を行い、住民の福祉の増進を図った。

## 令和2年度 くらしサポートセンターのみ 実績報告

### ① 生活困窮者自立相談支援事業

◎プラン作成件数 12件

◎相談実件数 509件

◎相談件数

	新規相談件数	相談延べ件数
4月	21 件	88 件
5月	32 件	116 件
6月	36 件	120 件
7月	33 件	109 件
8月	29 件	99 件
9月	25 件	128 件
10月	15 件	77 件
11月	15 件	73 件
12月	12 件	73 件
1月	11 件	87 件
2月	13 件	95 件
3月	24 件	171 件
合計	266 件	1,236 件

### ◎相談経路

相談先	人 数
本人	254 名
家族	1 名
民生児童委員	2 名
相談支援員（障害）	1 名
職業安定所	1 名
高齢者支援センター	2 名
病院	2 名
行政	3 名
合計	266 名

### ◎男女別内訳

男 性	176 名
女 性	90 名
合計	266 名

### ◎年代別内訳

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明
1名	46名	39名	54名	62名	29名	23名	3名	9名

### ◎相談対応状況

- 各制度等につなげた状況

就労支援	4 件	生活福祉資金	220 件
生活保護	5 件	福祉サービス利用援助事業	1 件
住居確保給付金	12 件	消費生活支援センター	2 件

\*その他 各あんしん相談支援センター、ケアマネ、相談支援員等は連携を図っている。

### ② 福祉サービス利用援助事業

#### ◎契約件数

認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合 計
21 件	3 件	8 件	1 件	33 件

③ 生活福祉資金貸付事業

◎能美市福祉資金 利用件数 8件（内、新規1件）

◎石川県生活福祉資金

資金の種類	件 数
福祉資金・教育資金・緊急小口資金	41 件 (内、新規4件)
総合支援資金	15 件
離職者支援資金	3 件
臨時特例つなぎ資金	2 件
合 計	61 件

延相談件数 22 件

◎《新型コロナウイルス特例》緊急小口資金・総合支援資金

資金の種類	件 数
緊急小口資金	209 件
総合支援資金	105 件
総合支援資金（延長）	47 件
総合支援資金（再貸付）	31 件
合 計	392 件

延相談件数 939 件

申請承認総金額  
122,365,000 円

④ 弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

◎弁護士無料相談 ※4・5月、計5回中止

実施回数	31 回 (毎月3回開催)
利用者数	114 名

◎行政書士無料相談 ※4・5月、計2回中止

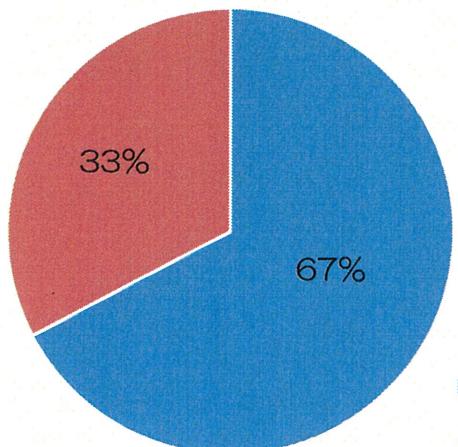
実施回数	10 回 (毎月1回開催)
利用者数	27 名

⑤ 心配ごと相談所の運営

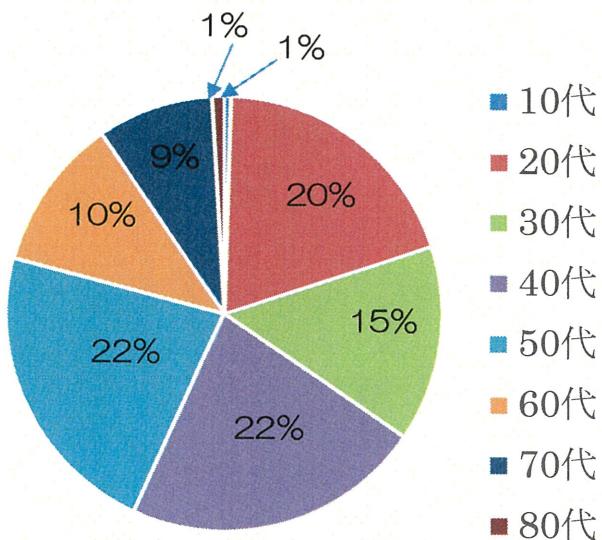
	根上地区	寺井地区	辰口地区	合 計
4月	中止	0 件	中止	0 件
5月	中止	中止	中止	—
6月	中止	中止	中止	—
7月	0 件	1 件	2 件	3 件
8月	0 件	2 件	0 件	2 件
9月	4 件	1 件	0 件	5 件
10月	0 件	0 件	0 件	0 件
11月	0 件	1 件	2 件	3 件
12月	1 件	2 件	0 件	3 件
1月	0 件	0 件	2 件	2 件
2月	0 件	1 件	1 件	2 件
3月	0 件	0 件	0 件	0 件
合 計	5 件	8 件	7 件	20 件

●『新型コロナウイルス特例』緊急小口資金・総合支援資金項目別実績(別添資料)

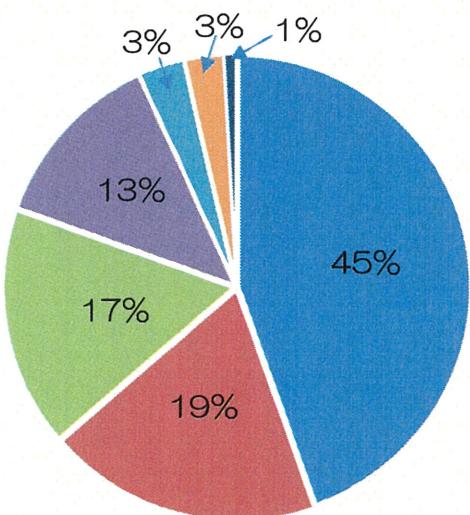
◎申請者性別



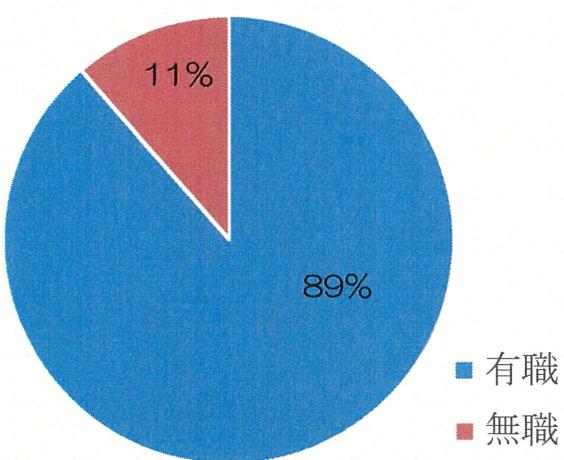
◎申請者年代



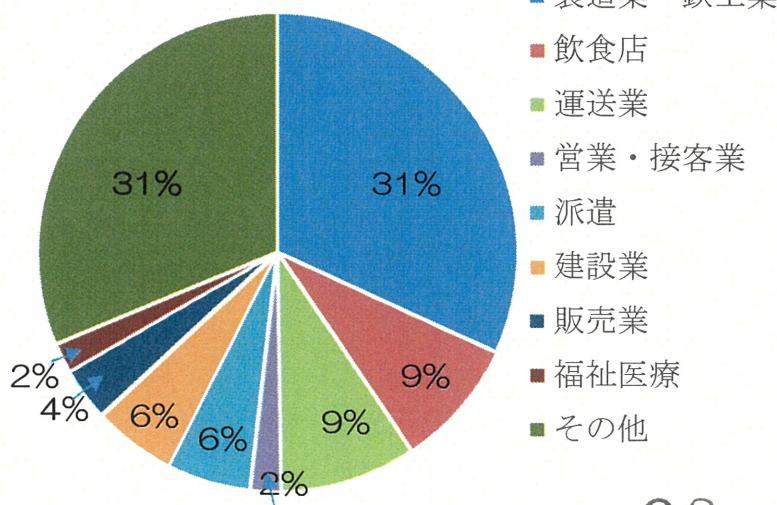
◎申請者世帯別



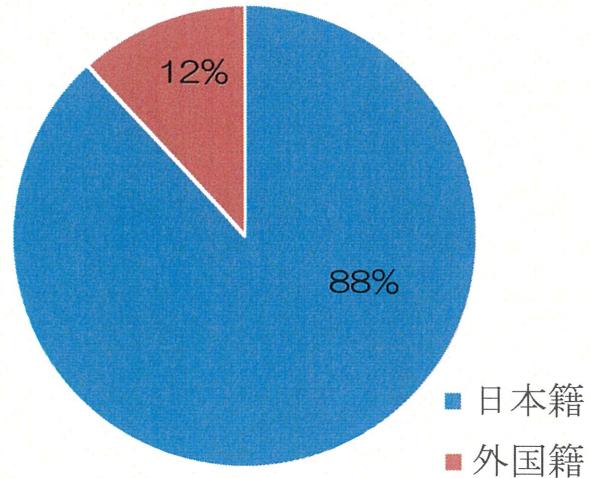
◎申請者有職者数



◎申請者職種別

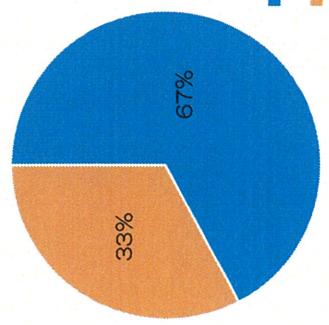


◎申請者国籍別

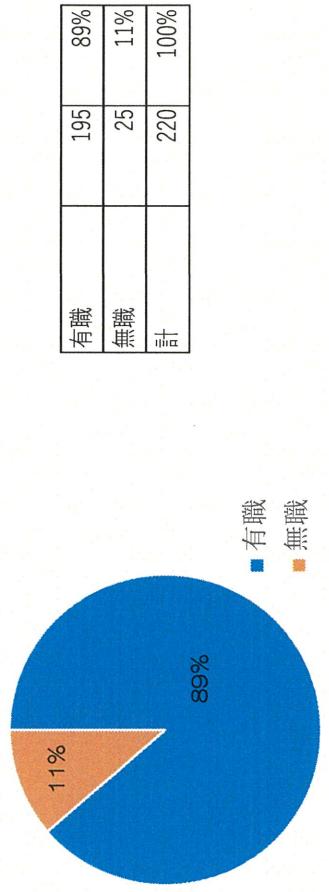


●《新型コロナウイルス特例貸付》緊急小口資金・総合支援資金項目別実績(別添資料)

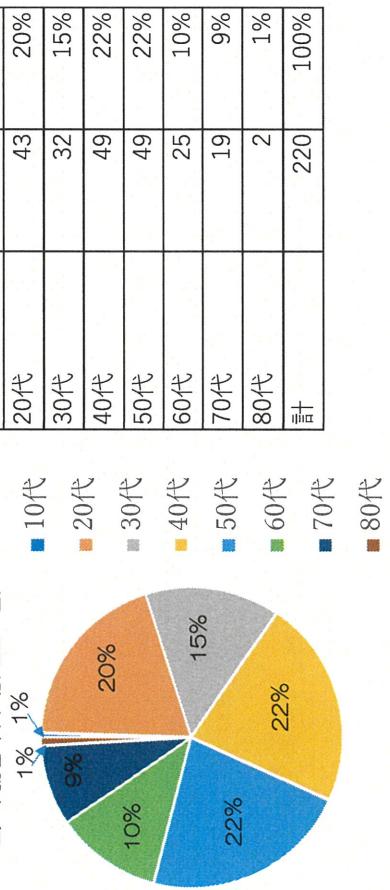
1. 申請者性別(計220名)



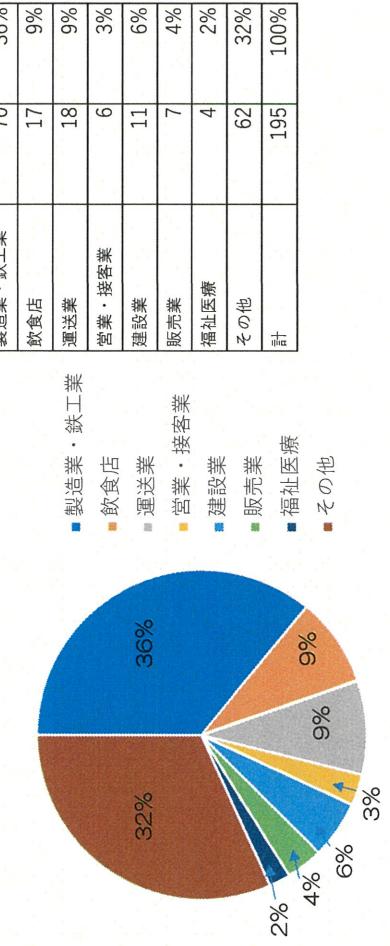
4. 申請者有職者数(計220名)



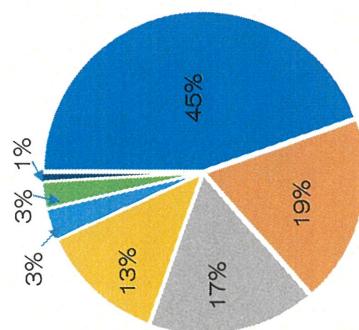
2. 申請者年代(計220名)



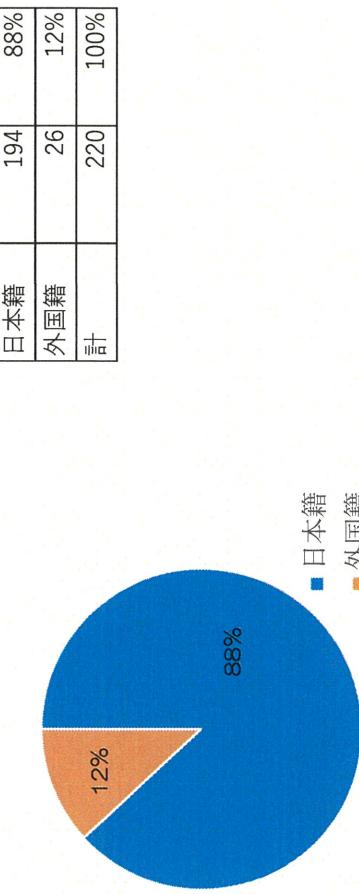
5. 有職者職種別(計195名)



3. 申請者世帯別(計220名)



6. 申請者国籍別(計220名)



## 【能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所事業報告】

### 1. 総括

事業所のケアマネジャーは看護師、社会福祉士、介護福祉士とそれぞれが持つ基礎資格を活かし、各地区のあんしん相談センターやくらしサポートセンターのみ等と連携を図りながら、処遇困難なケースにも積極的に取り組むことができ、利用者やその家族が住み慣れた地域で暮らせるよう支援ができた。

しかしながら、目標としていた顧客人数の獲得には至らなかった。

### 2. 運営状況

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、情報収集や検討、対応の変更等が加わり、当初目標としていた新規利用者の獲得数に至らなかった。しかしながら、社会福祉協議会の事業所として、新たに感染症対策も取り入れ、ケアマネジメント業務の更なる質の向上と、地域や関係機関との連携を目指しながら、事業所運営に取り組んだ。

### 3. 事業状況

#### ① 居宅介護サービス計画の作成

- ・職員の人数に合わせ、特定事業所加算（Ⅲ）を算定した。
- ・事業所内会議を毎週、定例で開催し、利用者に関する情報共有や留意事項に係る伝達を行った。
- ・24時間携帯電話を輪番制で所持し、いつでも連絡が取れる体制を確保し、必要に応じ相談に対応した。

#### ② 介護予防プランは介護給付のプラン作成に支障のない程度で受け入れた。

#### ③ 要介護認定調査を実施した。

#### ④ 事業所の資質向上を図った。

- ・介護サービスの情報の公表を行った。
- ・研修については一部ZOOM等を活用し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、業務に必要な研修や地区エリア会議に参加した。

# 能美市社会福祉協議会 能美居宅介護支援事業所 令和2年度 実績報告

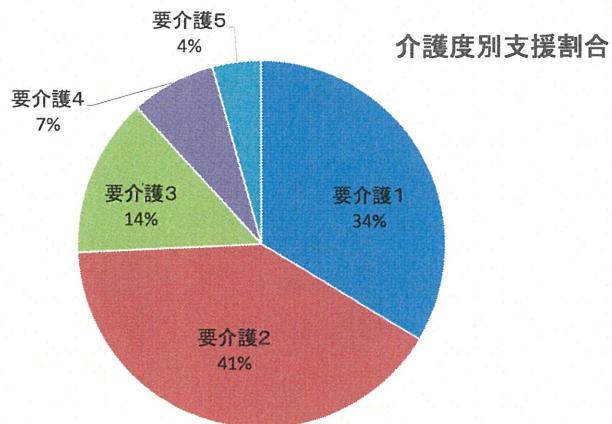
## <介護保険事業>

介護保険の要介護の方や家族の要望に基づき、居宅介護サービス月間計画(ケアプラン)を作成 (単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数	ケアマネ一人当たりの件数
作成件数	62	62	60	65	62	65	66	67	67	66	65	63	770	21.4

### 月別介護度支援内訳

要介護1	17	18	18	19	18	21	23	25	25	24	26	25	259
要介護2	26	24	27	29	28	27	26	26	27	25	24	24	313
要介護3	12	13	9	9	9	9	9	8	8	8	7	7	108
要介護4	3	4	4	5	5	6	5	5	4	6	5	5	57
要介護5	4	3	2	3	2	2	3	3	3	3	3	2	33



## <受託事業>

※住宅改修業務:依頼なし

### 予防プラン作成

	件数
4月	7
5月	5
6月	4
7月	4
8月	4
9月	4
10月	4
11月	5
12月	5
1月	5
2月	5
3月	5
合計件数	57

### 認定調査受託

	件数
4月	1
5月	0
6月	0
7月	2
8月	3
9月	1
10月	0
11月	0
12月	0
1月	0
2月	1
3月	0
合計件数	8

能美市社会福祉協議会 能美居宅介護支援事業所  
令和2年度 実績報告

収入計 (円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護	922,880	917,540	874,600	947,770	913,400	964,270	982,840	981,250	987,090	973,340	944,450	904,150	11,313,580
要支援	28,980	17,820	13,740	13,740	15,640	13,740	19,720	17,820	22,720	19,320	214,800		
認定調査	2,970	0	0	5,940	8,910	2,970	0	0	0	0	2,970	0	23,760
その他（住宅改修のみ）	0	0	0	0	0	2,000	0	0	0	0	0	0	2,000
収入計	954,830	935,360	888,340	967,450	936,050	984,880	996,580	1,000,970	1,004,910	991,160	970,140	923,470	11,554,140
令和元年度収入計	1,165,708	1,198,724	1,128,622	1,106,448	1,124,158	1,065,454	1,055,810	1,096,260	1,121,130	1,089,960	1,007,360	979,630	13,139,264
差額（令和2年度－令和元年度）	△ 210,878	△ 263,364	△ 240,282	△ 138,998	△ 188,108	△ 80,574	△ 59,230	△ 95,290	△ 116,220	△ 98,800	△ 37,220	△ 56,160	△ 1,585,124
累計	1,165,708	2,101,068	2,989,408	3,956,858	4,892,908	5,877,788	6,874,368	7,875,338	8,880,248	9,871,408	10,841,548	11,765,018	

3 1

利用者数 (件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護	62	62	60	65	62	65	66	67	67	66	65	63	770
要支援	7	5	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	57
認定調査	1	0	0	2	3	1	0	0	0	0	1	0	8
その他（住宅改修のみ）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
令和2年度利用者計	69	67	64	69	66	69	70	72	72	71	70	68	827
令和元年度利用者計	84	83	77	80	82	80	78	86	81	81	78	72	962
比較（令和2年度－令和元年度）	△ 15	△ 16	△ 13	△ 11	△ 16	△ 11	△ 8	△ 14	△ 9	△ 10	△ 8	△ 4	△ 135